

声 で情報をお届け

声の広報東郷

えるため、平成10年に設立しました。以来、毎月発行する広報とうごうのほか、生涯学習情報誌「ジョイフル」、議会だより、社協だよりの音訳・録音をしています。

会員は現在15人。仕事をしている人や、他のボランティア活動・サークル活動をしている人などさまざまです。主な活動は毎月一回の定例会と、月に6日程度の録音作業。録音は冊子の原稿が出来上がったから発行されるまでの間で行うため、短い期間で正確な作業が求められます。

積極的な会員募集が受賞に繋がる

声の広報東郷では、3年ごとに養成研修（外部講師による講習やパソコンを使った実技）を開催し、技術の向上や会員募集に努めています。平成29年に実施した研修を受講し、新たに5人が入会しました。こうした取り組みが評価され、今年の9月に「朗読録音奉仕グループ奨励賞」を受賞しました。これは視覚障がい者の教育環境の向上に尽力している奉仕者の功績に感謝の意を表する「第49回朗読録音奉仕者顕彰」における表彰で、東海地区でこの賞を受賞したのは2グループのみ。森さんは受賞したことを知ると「びっくりすると同時に、活動が認められて嬉しかった



表彰盾を持つ犬飼さんと森さん（前列左）、メンバー

毎月皆さんのご自宅にお届けしている広報とうごう。冊子だけでなく視覚障がいのある方には「声」としてお届けしています。その「声」となっているのが、「声の広報東郷」の方々です。今回は、声の広報東郷代表の犬飼佐智子さんとメンバーの森節子さんにお話を伺いました。

声の広報東郷の取り組み

声の広報東郷は、目の見えづらい人に文字などの情報を音声化して伝

たです」と話します。犬飼さんは「今回の受賞を糧に、よりよいものができようさらに努力していきたいです」と微笑みます。受賞が今後の活動の大きな励みとなりそうです。



定例会での打合せ風景

更なる技術の向上を目指す

よりよい「声」をお届けするために気を付けていることのひとつに「文章の『間』を大切にすること」ようにしていると犬飼さん。初めての原稿を読む際には、改行などの関係で文章の切れ目ではないところで息継ぎをしようというところがあるため、録音の前には一度原稿を読むことが大切です。また、感情を込めて表現する朗読と違

い、音訳は情報を正しく伝えることが重要です。そのため、図表や写真の説明をするときには、どう説明すれば伝わるかを考えて音訳しているそうです。音訳には知識や技術は必要ですが、やりながらレベルアップできます。気軽に始められると思い、入会したというメンバーも。これからもレベルアップしていきたいと更なる向上を目指します。これからも必要な人に必要な情報を正しく伝えてもらえることと思います。

声の広報は町ホームページで聞くことができます。皆さんも、声で広報とうごうなどの情報を届けてみませんか。声の広報東郷は、いこまい館の2階にある町民活動センター、社会福祉協議会のボランティアセンターに団体登録していて、随時会員を募集しています。興味のある人は、地域協働課 ☎0561・56・0727へご連絡ください。



読み上げ内容を確認しながら録音します